

令和7年1月27日

ラオス官民合同委員会結果概要

日時：2025年1月17日(金) 老時間 9:00-11:30

場所：技能開発院 (Skills Development Institute/SDI)

参加者数：17名

政府(11)： 老 技能開発院(8名)

日 厚生労働省(1名)

日 在ラオス日本国大使館(1名)

訓練施設(1)： 老 ビエンチャン技能開発センター(Vientiane Skill Development Center/VSDC) (1名)

現地企業(1)： 老 Electrical Civil Mechanical Engineering Co., Ltd. (ECME) (1名)

援助機関(2)： 日 ラオス日本人商工会議所(2名)

有識者(1)： SESPP 事務局技術顧問(1名)

事務局(1)： JTB 霞が関事業部 2名 (別途、日老通訳 1人)

1. 今年度の成果(SESPP 事務局)

昨年度に引き続き、現地研修をラオスにて実施した。

・機械検査 3 級技能評価者講習(SAT)

9月23日～27日、SDIにて実施。受講者 10名。

・配電盤制御盤組立て作業 3 級職業訓練技法講習(VTM)、2 級技能評価者講習(SAT)

11月2日、4日～8日、SDIにて実施。受講者 9名。

・機械検査 3 級技能評価トライアル(SET)

1月13日～16日、SDIにて実施。受講者 8名。受検者 8名(合格者 1名)

2. 次年度実施に向けた提案(厚生労働省)

① SESPP 事業の最終目標:技能評価システム(技能競技大会・技能検定)を構築することにより、技能労働者の育成及び能力向上を図る。

② 技能検定の目標/活動

・目標・・・SESPP 協力職種の技能検定の構築

・活動・・・2024 年事業のフォローアップ (技能評価トライアル)

③ ラオスにおける 2025 年度事業実施案

・2024 年度事業のフォローアップ(配電盤・制御盤組立て 2 級 SET、機械検査 3 級 SET)

3. 官民合同委員会での主な意見

①継続的な支援について

・ラオスでは 2026 年度からの 5 カ年計画を作成中であり、SESPP 事業も 5 カ年計画に加えたい。

(SDI・Inthavon 氏) 中長期的な継続的な支援をお願いしたい。(SDI・Phongsavanh 副所長)

・日本の予算は年度ごとに毎年申請する単年度事業であるため、長期の支援の確約は難しい。しかし、本事業はひとつの職種、ひとつの等級が終了するまで、4 年ほどかかるので、ラオスとは中期的な計画を共有し

て事業をすすめたい。(厚生労働省・内野海外協力推進官)

② 国間での書面取交しについて

- ・2 国間での協力の場合、通常 MOU(Memorandum of understanding/基本合意書)を締結し、実施内容・期間を明確にしたうえで、事業を進めるが、MOU でなくても支援を約束する何らかの書面が有れば、労働社会福祉省の計画協力局に事業実施の申請ができるので、検討してほしい。(SDI・Inthavone 氏)
- ・省内のみならず、外務省や計画投資省からは、事業実施の裏付けとなる書面の提出を求められるので、必要である。(SDI・Phongsavanh 副所長)
- ・MOU ではなく MOC(Memorandum of Cooperation/協力覚書)を締結することが多く、MOC かつ署名者が DIRECTOR であれば比較容易に手続きが可能なので、ラオス側に検討いただきたい。(厚生労働省・内野海外協力推進官)

③ 研修実施時期について

- ・ラオスの会計年度は 1 月～12 月であり、年度末の 12 月と年度当初の 1 月は、受講者が通常の業務で忙しく、研修参加が難しい。実施時期の検討を依頼する。(SDI・Phongsavanh 副所長)
- ・ラオスの会計年度に対して、日本は 4 月～3 月であり、日本側が事業を開始できるのは 4 月以降となる。2025 年度は実施内容がほぼ決まっているので、早めに専門家と調整して、ラオス側が避けてほしい時期を外して研修を実施するよう留意する。

④ 日系企業との協力について

- ・今回、機械検査 3 級 SET において、日系企業からの見学があり、日系企業との協力を進めていきたい。ラオス企業を含む多くの企業に技能検定制度の重要性を認識してもらいたい。(SDI・Inthavone 氏)

以上、